

3. 「認知症の人『本人ネットワーク』支援」活動報告より

(写真はご本人およびご家族の承諾をいただいております)

■「本人会議」参加者へのインタビュー(抜粋)

加藤美貴子氏、(加藤芳郎氏)



沖田: なにかみなさんに助けてほしいこととかありますか。

加藤(美): いえ、あの、そういうのはぜんぜん考えていなくて。

沖田: 今そんなに困っていないのですよね。いいサポーターが
いますからね。ご主人が(笑)。加藤さんが本人会議のとき

にいわれていた言葉で、すごく印象に残っていることばがあるのですが、アピール文をつくるときに、「認知症だからといって馬鹿にされたくない」、という文章があって、それを「もっと尊重されたい」という文章に代えましょうかといったときに、「そんなに卑下することもなし、えらぶこともなし、わたしはわたしでいいのよ」といわれたのですよね。

加藤(美): そうですね。普通ですね、それが。

沖田: それで十分だと。

加藤(美): はい。

沖田: やはり、「わたしがわたしで」ということが一番ですか。

加藤(美): そうですね。できる限りはね。やっていこうかなと思っております。大それた病気とかね、そんなの思うことないですよ。ですから、そういう心意気で毎日おります。(笑)

沖田: ありがとうございます。

沖田: 美貴子さんの第一サポーターである、ご主人からなにかありましたら。

加藤(芳): この病気になって私はよかったなと心底からそう思っています。うちのは、痛いとか、かゆいとか、苦しいというのがないんですよ。ほかの病気だと当然、苦しいとか、寿命がどのくらいですよとかいわれるんですけど、家内は痛いとか、かゆいとか、苦しいとか、いうことがないのが、私は本当に、ほかの病気じゃなくてよかった、この病気でよかったと、このごろ感じるようになっていきます。

沖田: 本人会議に参加されてから、奥様になにか変わられたことがありますか。

加藤(芳): うちの家内は、自分よりもっともつとしゃべれる人が大勢いたと申していました。私はまだまだ同じようにしゃべれるんだ、ということで自信がついたみたいでした。毎日の生活の中でよくしゃべるようになりました。すごく明るくなりました。10月に(本人会議を)やってから朗らかになりました。明るくなったと、これは非常に感謝しています。

沖田: この会議が終わってからも、あの会議で知り合ったことで、大阪にもきてくださったり、広島で若年サミットがあったときも、みんなであったりできるから、全国にいろんな、訪ねていける仲間ができた。

加藤(美): 一番うれしいことでしたね、最近の中で。

沖田: また、いろいろなところに訪ねていってください。

加藤(美): はい。ありがとうございました。